

あきらめない映画

山形国際ドキュメンタリー映画祭の日々

山之内悦子

山之内悦子のヤマガタへの愛は、怖いほどに気高く、時に挑発と痛快の雑居であり、そして、計り知れないほどの優しさに満ちている。異文化間コミュニケーションを繋ぐ、いや、紡ぐ通訳者の物語は優れたドキュメンタリー映画そのものだ。

——崔 洋一（映画監督）

第一章 ヤマガタという磁場

山形国際ドキュメンタリー映画祭とは／ヤマガタまでの人生／映画祭の通訳／ヤマガタに集う人々

第二章 ヤマガタの仲間

監督篇1 気遣いの人 一番古い友達—小林茂監督／監督篇2 伝えずにおくものか 一番新しい友達—早川由美子監督、土井敏邦監督／ボランティア・スタッフ篇 まず地元の間人を中心になって映画祭をやりきろう—縁の下の五人のヒーロー／観客篇 遠くまで伸びたヤマガタの根 奈良と京都から—浦辻宏昌さん、東眞理子さん

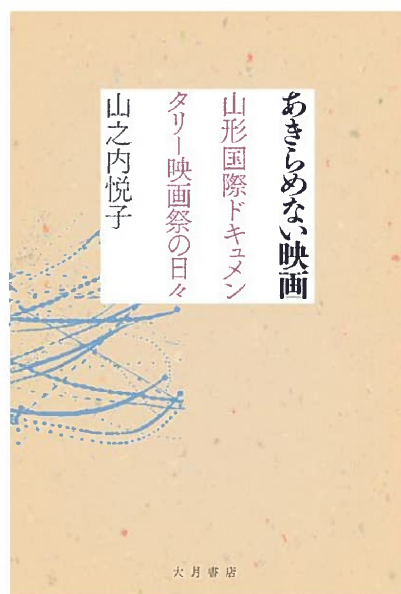
第三章 映画を選ぶということ

第四章 祝祭と喧々囂々

1 祝祭に差した影—一九九三年「世界先住民映像祭」／2 二〇年後に思うこと—『黒い収獲』をめぐる／3 照明弾が落ちるそばで、子を抱き静かに子守歌を歌う女—『カネサタケ、抵抗の270年』／4 告発ではなく希望の映画を—『学びの道』

第五章 作品をめぐる対話

すべての人の物語—ヘルマン・クラル監督と『不在の心象』／カメラの暴力と窃視性—森達也監督、安岡卓治プロデューサーと『311』／編集室の孤独と植民地主義の残像—ヴィンセント・モニケンダム監督と『マザー・ダオ』



山之内悦子（やまのうち えつこ）

1954年愛媛県生まれ。英語通訳者。山形国際ドキュメンタリー映画祭には初回以来、毎回通訳者として参加。慶應義塾大学文学部在籍中のカナダ留学が縁で、25年以上バンクーバーに暮らす。字幕翻訳も手がける。

『あきらめない映画』申込書

FAX: 03-3813-4656 (大月書店営業部宛)

●2013年9月27日発売 ●本体2,000円(税込2,100円) ●四六判並製カバー装・288頁 ISBN978-4-272-61229-1

全国のどの書店からでもご購入いただけます。弊社に直接お申し込みの場合は、宅急便の代金引換（ブックサービス：税込価格＋配送手数料200円）にてお送りします。下記にご記入のうえ、FAXにてお送りいただくか、電話またはEメール: info@otsukishoten.co.jpにて下記の必要事項をお知らせください。

お名前

ご住所 〒

電話番号

ご希望部数

部

大月書店 〒113-0033 東京都文京区本郷 2-11-9 TEL.03-3813-4651 FAX.03-3813-4656 <http://www.otsukishoten.co.jp/>